

全国地産地消推進協議会会長賞

みどりの食材連絡会

～直売所連携による顔の見える学校給食支援～

代表者：会長 松田 誠子

所在地：秋田県鹿角市

構成員：会員数 155名

活動開始年月日：平成12年4月

表彰理由

直売所間の連携を図り、地道な活動を継続することにより学校給食への地場産物の供給を拡大するなど、地域における実践的な地産地消の取組を展開。

学校給食への食材提供を一つの契機として、安全・新鮮な食材の供給に向けた会員のエコファーマー認証取得や栽培・冬期保存技術の高位平準化に取り組むなど、農業生産面も改善。

会員の学校訪問や学校栄養士との交流、児童・生徒への体験学習等においても主体的な役割を担っており、児童・生徒の「食」と「地域農業」の理解の促進に多大な貢献。

取組内容

1 学校給食における地場産物の供給拡大

- 市内の全ての小中学校の学校給食(H21 3,100食)における地場産物の供給拡大に向けて、同会が中心となって需要量に十分対応できるよう直売所のネットワークを構築。年間納入品目45品目、地場産利用割合51.2%、納入総量40.1トンまで拡大(平成20年)。
- 平成12年4月の同会発足以来、毎月欠かさず「定例運営委員会」を開催し、納入品目、納入希望価格等について協議。学校側からの意見・要望を踏まえ、納入者、数量等を決定する打ち合わせを随時開催。
- 短時間で効率的な調理が求められる学校給食の調理現場のニーズに併せて、直接搬入、野菜の洗浄、規格の統一、包装の簡素化等の工夫を行っている。
- 学校給食に安全な農産物を導入し、児童・生徒に「旬」の安全な農産物を食べて欲しいとの思いから会員155名のうち、75名がエコファーマーとして認定されている。
また、夏季冷涼、冬季積雪という気象条件を生かした高品質な栽培及び保存を工夫・実践。

2 多様な「交流」による顔の見える関係の構築と効果的な食育の実践

- 地場産物をふんだんに使った献立の日「たらふくかつぶの日」に併せて、市内の小学校を会員が訪問。野菜に関するクイズを出したり一緒に給食をとったりしながら交流。
- 特産の「秋田フキ」の刈り取り学習を市内の小学校と協力して毎年実施。小学生が刈り取ったフキは翌日の給食で提供される他、平成19年度からは、会員が調理した伝統的なフキ料理の試食会も実施。
- 学校栄養士や関係者が会員農家のほ場を視察し、収穫体験を行う研修行事を年1度開催。地場産物への理解を深め、献立作りへの提案にもつながっている。